

## 夏秋ギク型輪ギクのエテホン利用による 8 月の需要期出し栽培

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

輪ギクの 8 月出し栽培において、夏秋ギク型品種「精祝」、「スーパーイエロー」や「岩の白扇」の導入が急速に進んでいる。この 3 品種については、8 月盆の需要期に出荷することで高単価が得られるが、現状では電照のない条件において、需要期に合わせた安定出荷がまだできない状況にある。そこで、この 3 品種の無摘心栽培において、エテホンを利用して 8 月盆の需要期に合わせた開花制御技術を検討したところ、品種による開花制御の可能性と「精祝」と「スーパーイエロー」のエテホンの最終処理時期が明らかになったので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 夏秋ギク型輪ギク「精祝」の無摘心栽培では、電照を行わなくてもエテホン処理のみで開花制御しやすく、エテホン液剤 500 倍液（商品名「エスレル 10」，濃度 200ppm）の最終処理を 5 月 4 半旬に行うと、品質の優れた切り花が 8 月盆の需要期に得られる（表 1）。
- 2) 夏秋ギク型輪ギク「スーパーイエロー」の無摘心栽培では、「精祝」と同様に電照を行わなくてもエテホン処理のみで開花制御しやすく、エテホン液剤 500 倍液の最終処理を 5 月 4 半旬に行うと、品質の優れた切り花が 8 月盆の需要期に得られる（表 2）。
- 3) 夏秋ギク型輪ギク「岩の白扇」の無摘心栽培では、8 月出し栽培において、電照を行わないでエテホン処理のみの開花制御は不安定である（表 3）。

### 3 利活用の留意点

- 1) エテホンは、定植時期にあわせて処理回数を選択する。
- 2) この開花制御技術は平野部にある試験地（名取市）におけるデータによるものである。電照設備のない施設栽培に適する。
- 3) 試験地（名取市）における気温の準平年値及び 8 月出し栽培での時期別、品種別単価と粗収益については、普及に移す技術第 78 号「夏秋ギク型輪ギクの電照利用による 8 月、9 月の需要期出し栽培」を参照する。
- 4) 高温・強日射の場合、寒冷しゃ等で被覆し、施設内環境を制御する。
- 5) 親株栽培では花芽形成をしないように電照あるいはエテホン処理等を行っておく。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話 0 2 2 - 3 8 3 - 8 1 3 2 ）

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

夏期生産用輪ギクの開花制御技術の確立 平成12～13年度

##### 2) 参考データ

表1 夏秋ギク型輪ギク「精祝」の8月出し無摘心栽培におけるエテホン処理の影響

区	開 花		切 り 花 品 質					
	盛 期 (月/日)	開花率 (%)	切花長 (cm)	切花重 (g)	葉数 (枚)	花首長 (cm)	柳葉数 (枚)	扁平花率 (%)
エテホン処理なし	7/25	6	94	97	36	3.4	1.6	0
エテホン最終処理5/ 7 (5/7処理)	8/ 3	53	102	108	38	3.4	1.7	0
エテホン最終処理5/20 (5/7, 5/20処理)	8/11	72	103	114	46	3.5	1.9	0
エテホン最終処理6/ 2 (5/7, 5/20, 6/2処理)	8/14	31	107	122	50	3.9	2.3	0

注) 定植は2001年5月1日。エテホンはエテホン液剤500倍液(濃度200ppm)で1茎当たり2ml処理した。  
開花盛期は50%開花時とし、開花率は8月の需要期(8月5～12日:8日間)に開花した率とした。

表2 夏秋ギク型輪ギク「スーパーイエロー」の8月出し無摘心栽培におけるエテホン処理の影響

区	開 花		切 り 花 品 質					
	盛 期 (月/日)	開花率 (%)	切花長 (cm)	切花重 (g)	葉数 (枚)	花首長 (cm)	柳葉数 (枚)	扁平花率 (%)
エテホン処理なし	7/25	8	104	113	43	2.8	1.8	0
エテホン最終処理5/ 7 (5/7処理)	7/28	25	104	113	43	3.4	1.8	0
エテホン最終処理5/20 (5/7, 5/20処理)	8/10	83	105	115	46	3.6	2.0	0
エテホン最終処理6/ 2 (5/7, 5/20, 6/2処理)	8/13	67	106	118	53	3.6	1.9	0

注) 表1に同じ。

表3 夏秋ギク型輪ギク「岩の白扇」の8月出し無摘心栽培におけるエテホン処理の影響

区	開 花		切 り 花 品 質					
	盛 期 (月/日)	開花率 (%)	切花長 (cm)	切花重 (g)	葉数 (枚)	花首長 (cm)	柳葉数 (枚)	扁平花率 (%)
エテホン処理なし	7/ 6	0	69	53	29	2.9	2.3	0
エテホン最終処理5/10 (5/10処理)	7/15	0	79	73	35	2.9	2.2	0
エテホン最終処理5/25 (5/10, 5/25処理)	7/25	0	86	73	39	4.2	2.2	0
エテホン最終処理6/ 8 (5/10, 5/25, 6/8処理)	8/ 3	47	91	88	39	4.3	2.6	0

注) 定植は2001年5月2日。その他は表1に同じ。

##### 3) 発表論文等

###### a 関連する普及に移す技術

a) 夏秋ギク型輪ギクの電照利用による8月, 9月の需要期出し栽培(第78号普及技術)

###### b その他

a) 東北農業研究 第55号(平成15年)